

合同教育研究会議（10月26日開催）議事概要

1 開催日時

令和4年10月26日 13時00分～13時35分

2 場所

本部棟3階 特別会議室

3 出席者

鈴木学長、石堂副学長兼高等教育推進センター長、
狩野副学長兼研究・地域連携本部長、宮野副学長兼事務局長、
猪股教育支援本部長、三上学生支援本部長、橋本企画本部長、熊本国際教育研究部長、
福島看護学部長、高橋社会福祉学部長、高嶋総合政策学部長、
川崎盛岡短期大学部長、長坂生活科学科長、
松田宮古短期大学部長、大志田経営情報学科長、
菅原委員（学外委員：岩手大学名誉教授）、
長谷川委員（学外委員：製品評価技術基盤機構理事長※Web参加）

[事務局]

新沼事務局次長兼総務室長、関屋教育支援室長、高田学生支援室長、
藤村研究・地域連携室長、北島企画室長、
西川総務財務課長、八木主幹、鈴木主幹、高橋主任主査、伊藤主任主査

4 会議の概要

議事録確認

前回会議10月12日の議事録（議事概要）については、原案のとおり了承された。

審議事項

第四期中期目標に係る岩手県立大学意見（最終案）について

橋本企画本部長から、資料に基づき説明があった。大学院の組織のあり方に関する事項が岩手県により追加修正されているが、第二期・第三期中期目標期間中においても課題となっていたものが、第四期で目標として示されたものであること、本資料の内容は中期計画策定委員会で確認済みである旨、補足説明があった。

大学院の組織のあり方に関する事項について、「教育の実施体制の整備」の欄に追加されているが、追加する場所も岩手県から指定されたものか、大学院の定員充足であれば「入学者の受入れに関する目標」の欄に追加の方が直接的だと考えるが、そうではなく「教育の実施体制の整備」に追加したということは、定員充足だけではなく研究科のあり方や組織、4研究科の構成の見直しも含むという理解でよいか、との委員からの質問に対し、橋本企画本部長から、岩手県においてこの欄に追加し、本学に示されたものであること、岩手県としても組織のあり方の検討を重視しており、4研究科のあり方の検討も含むものと捉えているとの回答があった。猪股教育支援本部長から、当該箇所に関する全学共通計画は教育支援本部が所管するため、今の説明を踏まえて計画の検討を進めるとの発言があった。学長から、博士の学位を取得しても現状では働くところがないため、博士を生かせない社会

自体を変えていかなければならないという根本的な問題があること、日本経済団体連合会において、Society5.0 実現に向けた高度専門職の必要性や採用のあり方の検討などが進められており、今後は博士の需要が高まっていくと考えられることから、それらを踏まえて大学院の検討に本腰を入れる時期であるとの発言があった。

「教育研究上の基本組織」に「1 大学 2 短期大学部を置く」とされているが、本学の短期大学部は「〇〇短期大学部」という名称の独立した短期大学であるため、ここでは「1 大学 2 短期大学を置く」とするのが正しく、修正が必要であるとの委員からの意見に対し、橋本企画本部長から、訂正として岩手県に伝える旨回答があった。

委員から、大学院の組織の見直しに当たっては、女性の大学院進学率が低く、岩手県は博士課程だけでなく修士課程への進学率も低いことから、進学率の向上にも積極的に取り組んでほしいとの発言があった。

委員から、DXの重要性が高まっており、地域貢献として本学の特徴が出せるのではないかと考えていること、社会人の学び直しやリカレント教育ということは以前から言われているが、仕事をしながらでもリスキリングができるような仕組みを本学が作っていくことを期待するとの発言があり、学長から、一般向けにデータサイエンス教育を普及できるよう、放送大学や一関工業高等専門学校などと連携した取組を検討している旨、発言があった。

審議の結果、「教育研究上の基本組織」に記載されている「1 大学 2 短期大学部」を「1 大学 2 短期大学」と訂正し、その他の箇所は原案のとおりとすることが了承された。

その他

令和4年度岩手県立大学大学祭（鶯風祭 2022）の開催について

三上学生支援本部長から、前回の合同教育研究会議以降に大学祭実行委員会と協議した内容及び開催条件への対応状況について、資料に基づき説明があった。